

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

令和6年度病害虫発生予察注意報第5号を発表したので送付します。

令和6年度病害虫発生予察注意報第5号

- 1 作物名 小ギク
- 2 病害虫名 黒斑病・褐斑病
- 3 発生地域 沖縄本島

4 注意報発令の根拠

沖縄本島における10月のほ場調査の結果、本病害の発病葉率は10.2%(平年:1.6%)、発生ほ場率100%(平年:27.6%)となり、平年と比べて多発生となっている(図1)。また、過去2年の発生推移と比較しても高い発病葉率を示している(図2)。

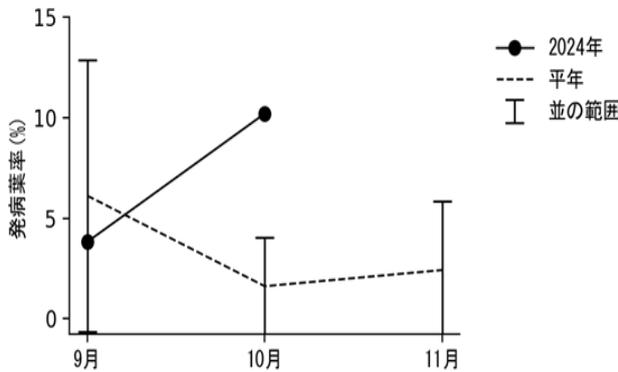


図1 黒斑・褐斑病の発病葉率の推移

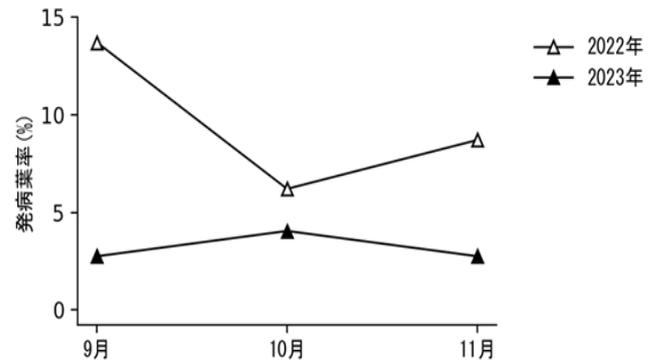


図2 黒斑・褐斑病の過去2年の発生推移

5 発生生態および被害

- (1) 黒斑病の病原菌は *Paragibbellulopsis chrysanthemi* および *Septoria chrysanthemella*、褐斑病の病原菌は *S. obesa* である。生育適温は *P. chrysanthemi* で 25°C、*S. chrysanthemella* で 24~28°C、*S. obesa* で 20~28°C である。
- (2) *S. chrysanthemella* および *S. obesa* による病徴は初め不規則な褐色小斑点を生じ、のちに不正形、楕円形、円形の黄褐色ないし黒褐色病斑となる。(図3)。*P. chrysanthemi* による病徴は下葉の表側に淡い斑点のような症状が現れ、その葉裏に明瞭な褐色斑点や輪点症状が現れる(図4)。病徴の進展により、葉の表側にも明瞭な斑点症状が現れ融合し黒変する。なお、いずれの病原菌も病徴が類似するため、外観的な識別は困難である。
- (3) *S. chrysanthemella* および *S. obesa* では被害葉上に形成される柄子殻から雨滴やかん水により分生子が飛散し、周囲に伝播する。*P. chrysanthemi* では被害葉上に形成される分生子が風雨で飛散することで周囲に

伝播すると考えられる。また、被害葉に形成された厚膜胞子は乾燥条件下でも長期間生存できる。

- (4) 多発時では大型病斑が増加し、下葉から枯れ上がり、上位葉へと進展する。ひどい場合には半数以上の葉が枯死する。
- (5) 高温多湿条件で多発する。また、肥料切れや窒素過多により発生が助長される。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 発病葉は速やかに除去し処分する。
- (2) 窒素肥料の過用を避け、施肥管理を適正に行う。
- (3) ほ場の排水および通風を良くする。
- (4) 水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草やマルチ等を行う。
- (5) 予防および発生初期の薬剤防除を徹底する。



図3 葉の症状 (*S. chrysanthemella*)



図4 葉の症状 (*P. chrysanthemi*)

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL: (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933
ホームページアドレス: <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>

